2025 年 1 月 11 日（土）、鹿児島市立谷山中学校グラウンド

令和 6 年度 桜島火山爆発総合防災訓練【展示訓練】

鹿児島大学 共通教育科目「防災フィールドワーク」受講生 18 名

初回授業 10 月 5 日から取り組んだ研究成果をポスター発表（教員監修）

1　桜島武町における避難完了板の「掲示率」に関する調査 【Aチーム】

加覧幸那（法文 3）・末満勇貴（工 2）・出口真優莉（工 1）・上門虎太郎（理 1）・大石莉子（医 1）

防災意識が高い「自治会の中心的な住民」19 名に聞き取り調査を行い、避難完了板「認知率 100 %」「掲示意思率 95 %」の結果を得た。対象エリアの全家屋数 40～50 軒を母数とし、「自治会の中心的な住民」19 名が避難完了板を掲示したと仮定すると、「掲示率 47.5～38 %」となり、「桜島住民避難訓練時の避難完了板の掲示率 44 %（鹿児島市）」に近い値となる。

2　桜島藤野町における大噴火時の「立退き避難」困難者の実態 【Bチーム】

加治木謙太（工１）・中山佳祐（工１）・清水優輝（工３）・大庭孝介（工３）・馬場心咲（法文３）

聞き取り調査から「身体に問題を抱えている人」は、20 名中 4 名（20%）と高い割合で存在する。「身体の問題等で、避難に不安を抱えている人」を、高齢化が進む桜島全体で丁寧に抽出すべきである。また、日中家族が別の場所におり、「身体に問題を抱えている人と合流して避難する」との回答が複数あった。個別避難計画等で、事前に対策を講じるべきであろう。

3　桜島大噴火時の島外避難に関する住民の「知識」と「意識・意欲」 【Cチーム】

松永彩果（法文 3）　長田怜奈（教育 2）　小田大登（工 1）　梅田侑弥（水産 1））

東桜島町 95 世帯を訪問し、26 世帯 41 人から回答を得た。問「非常用持出袋をすぐに持ち出すことのできる場所に準備しているか」と問「島外避難時 2 週間以上かかることを知っているか」をクロス集計した結果、“準備すること（意識・意欲）”と“知っている（知識）”ことに、有意な関係がみられた。訓練等でも、住民の意識・意欲を高める工夫が求められる。

4　桜島武町での夜間「立ち退き避難」の認識と集落環境 【Dチーム】

北村渓登（医１）・西山葉月（医１）・田平遥飛（工２）・紀野みや子（法文３）

大久保バス停周辺にて住民 16 人に聞き取り調査。集落内の「明るさ」ついて、「不満」「不安」な方が半数以上いたが、ほぼ全員が「懐中電灯を準備」し、「避難できる」と回答。防災意識が高い住民については、夜間の「立退き避難」が通常実行可能と思われるが、今後の高齢化も見据えて「準備できていない人」「避難できない人」へのケアが必要である。

謝辞：鹿児島市 SC 防災・災害対策委員会等を通じてご依頼した、鹿児島市危機管理課、桜島桜洲校区コミュニティ事務局 山元米子様、東桜島校区コミュニティ協議会事務局 木ノ下朋美様、桜島住民の方々に、アンケート調査等にご協力いただいた。学生共々、こころより感謝申し上げます。

文責：岩船昌起（共通教育センター）・安部幸志（法文学部）